



ヒール宮井の

National Farm Machine Show 見聞録2009 [後編]

取材・文・撮影／宮井能雅



1 フェント・トラクター。最近色が変わったのだろうか。米国に本格的参入と言うところだろうか 2 変わったスプレーヤーだ 3 中折れタイプのこのクラスは、北海道で数台使われている 4 日本でも販売されているトリムブルのオートステア付きのGPS。これを使いこなせないようでは、貧農の仲間入

りだ 5 GM製、V8ディーゼルエンジンはきれいだった 6 コンバインの刃先に取り付けるリフターと呼ばれ、倒れた麦を少し持ち上げ、刈りやすくする道具。純正よりも簡単に取り付けできるのが特徴のようだ。

米国農業の動きを 先読みすることは重要

今回、大失敗をしてしまった。4つのセミナーを拝聴する予定だった日程が変わっていたのだ。昨年12月にウェブ上でツアーを組んだが、開催日の変更があった。今までそのようなことはなかったもので、米国農政最新情報は1年間お預けとなってしまう。

ただ、数名の知り合いの米国人農家がいいたので、大体のことは聞いてきた。

オバマ政権になりグリーン政策を進める。太陽光、風力発電、バイオ燃料の推進である。この中でバイオ燃料の推進は前政権から引き継がれているが、連邦法でエタノールのガソリン混合率は10%（州単位ではそれ以上の値）を15〜20%に引き上げると発言していた。つまり現在のラインから出来るエタノールが50〜100%増えることになり、日本の輸入業者や畜産農家にどのような影響を及ぼすのか考える必要がある。

大豆も同じである。

昨年の国産納豆用大豆の価格は1年前の2倍であるが、豆腐用の大粒大豆の価格は、ほとんど変わらなかった。日本の大豆生産者も米国農業・農政に関心を寄せる必要はあり



9



8



7



10



11



12



15



14



13

7野菜の苗用移植機。日本で見ると違和感はないが、米国で見るとなぜか貧しさを感じてしまう8スチールのチェーンソーは映画『13日の金曜日』でも有名9ホンダのバギー。日本でも販売しているのか? 10ちよっと見ると軽自動車のようなだが、ヨーロッパ製1,000ccクラスの作業トラックの価格110万円11簡単農業ソフト。こんなの日本で売ってます? 12きれいな麦だ。米国の麦は品質が落ちると言うのは大間違い13私も使用している8t用肥料、ライムスプレッター。スラグの様な物も簡単に散布することができる14メチャクチャ安い中国製のターボ、担当者に品質は大丈夫かと聞いてみた。一度安いものを使ったら、高いものは使えないよだって15気軽に撮影に応じる、なぜか陽気なケンタッキー州警察。拳銃はしっかり装備されていた。

「やらない」と明言された。つまり直接可食用の大豆のGM化は考えていないということになり、それが分かっていながら、私が「日本の食用大豆もGMだ!」は現実性に乏しくなるが、何が起きるか分からないというのが世の常であろう。

一方、モンサントのブースは子会社の種子会社がメインになっていたので、目立たなかった。近い将来、早魃対応、高収量、耐塩性、センチユウ耐性の品種が出てくるのは知っていたので、特段、驚くものはないが、しかしこの技術を北海道で使えないもどかしさを感じた。

昨年、米国産大豆はGMが96%になった。つまりNON-GMは4%で、たった300万t。それでも日本産の20倍の収穫量である。この数字をGMに変える予定はないのか? と聞いてみたところコストが掛かるので「やらない」と明言された。つまり直接可食用の大豆のGM化は考えていないということになり、それが分かっていながら、私が「日本の食用大豆もGMだ!」は現実性に乏しくなるが、何が起きるか分からないというのが世の常であろう。